様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１７１０４
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2016
課題番号：２５７７０１０７

研究課題名（和文）17世紀イギリス劇作出版における文学編集確立の歴史

研究課題名（英文）Development of literary editing in the seventeenth-century English drama

研究代表者
長瀬　真理子（Nagase, Mariko）

九州工業大学・教養教育院・准教授

研究者番号：８０６３６５０６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：1616年までにベン・ジョンソンによって確立された劇作編集法が、当時の知識人や印刷出版業者からなるネットワークの中で継承され、特に1630年代と国王空位期間に出版された芝居において適用される様子と方法について調査を行った。具体的には、ジョンソン・フォリオの出版に継続して関与したリチャード・メイゲンとロバート・アロットが新参するシェイクスピア・セカンド・フォリオ（1632年）において、読み物としてのテクストを再構成するため、上演用の音声効果を支持するト書きが削除された背景を説明した。空位期間については、ウィリアム・ウィルソンの無記名印刷本の特定を進め、ネットワークの洗い出しを行った。

研究成果の概要（英文）：In this project, I have researched how the editorial practices that Ben Jonson had established in preparing his plays for publication by 1616 was inherited through contemporary networks of literati and stationers, and applied in such plays as published especially in 1630 s and during the interregnum period. One of the main focuses is on the 1632 Shakespeare Second Folio and its two newly-joined publishers, Robert Allot and Richard Meighen. Both of them were involved in the publication of Jonson Folios. Examination of the texts has revealed that there was a tendency to discriminate between stage directions for theatrical use and those for the use of reading, and that the former was often removed in the process of preparing a reading text. With regard to the interregnum editorial projects, I started with identifying networks mainly composed of royalist literati and stationers. In doing so, I identified some four books printed by William Wilson without his name on their title pages,

研究分野：初期近代イギリス演劇書誌学・本文研究

キーワード：17世紀イギリス劇作　読本用編集

１．研究開始当初の背景

現存する17世紀の劇作版本には、ほとんどの場合、編集者の名前も編集方針も印刷されていない。このため、この時代の劇作編集に関する先行研究は少ない。劇作編集の歴史に関する研究は、編集者名と編集方針が初めて印刷された1709年の『シェイクスピア作品集』以降、18世紀および19世紀の刊本に集中している。17世紀の劇作編集に関する主な研究としては、Matthew W. Black and Matthias A. Shaaber, *Shakespeare's Seventeenth-Century Editors* (1937)、C. H. Herford and Percy and Evelyn Simpson, *Ben Jonson*, IX (1950)、T. H. Howard-Hill, *Ralph Crane and Some Shakespeare First Folio Comedies* (1972)、Gary Taylor and John Jowett, *Shakespeare Reshaped* (1993)、Sonia Massai, *Shakespeare and the Rise of the Editor* (2007)などがあるが、いずれも特定の作家の作品に焦点が絞られている。作家別に版本を隔てた場合、ベン・ジョンソンのように作家自ら出版編集を手懸けたことが証明されていれば、その編集の理念と方法を解明することが可能であるが、シェイクスピア劇のように作家以外の人物が編集を行った版本においては、同一作家による劇作でも版本ごとに編集された環境が異なるため、その時代の編集の理念や技術の系譜を体系的に論じることはできない。

申請者が目指して来たのは、編集者ニコラス・ロウの出現を可能にした 17 世紀における劇作編集の理念と技術の形成の系譜を体系的に調査し、説明することである。先行研究が特定の作家の劇作版本に焦点を絞っているのに対し、申請者は、出版に関わった作家、筆写人、印刷出版業者のネットワークを辿ることにより、共通の理念で遂行された劇作編集の系譜を追跡してきた。

本研究開始以前の調査においては、ジョンソンの組織した文学サークルが 1640 年代から 1660 年代にかけてハンフリー・モーズリー、ヘンリー・ヘリングマンといった出版者を取り込み、ジョンソンの理念を継承し劇作を文学として出版する活動を強めていく様子を検証した。ジョンソンによって確立され、クレインに継承された劇作編集の手法が本格的に復活するのは 1660 年代に入ってからで、トマス・ミドルトンの *Mayor of Quinborough* (1661)やトマス・キリグルーの *Comedies and Tragedies* (1664)にその影響が色濃く、ト書きの‘aside’や台詞の語られる対象の表示など 1709 年にロウの採用した手法はこの時既に確立していたことを確認している。

２．研究の目的

17 世紀における劇作編集の理念と技術の形成の系譜を体系的に説明することが申請者の研究目的である。本研究開始以前の研究でジョンソンによって確立されたテクスト編集の影響と発展の大筋を捉えることはできたが、「17 世紀における劇作編集の理念と技術の形成の系譜を体系的に説明する」という目的の達成には、1630 年代から国王空位期間に波及した劇作編集の実態と 1664 年以降の版本に関する調査を完了することが必要である。

３．研究の方法

17 世紀における劇作編集の理念と技術の形成の系譜を体系的に説明するための手始めとして、申請者が調査対象に選んだのは、劇作家ベン・ジョンソンを始祖とし、出版者モーズリーやヘリングマンを取り込みながら、最終的にはニコラス・ロウを編集者として招聘したジェウイコブ・トンソンに受け継がれる、当時の知識人と印刷出版業者からなる文学サークルのネットワークである。このネットワークを辿りながら、従来通り作家ごとに版本を隔てるのではなく、特定の印刷出版業者によって生産された版本に残る編集の形跡を体系的に調査することで、系統的に編集手法の波及様態を説明できると考えた。

本研究の最終目的を達成するために、本課題では二つのアプローチを採用した。一つ目はジョンソンの文学サークルの流れを汲む印刷出版業者のネットワークの洗い出しである。本課題では特にヘリングマンによって空位期間に出版された劇作に印刷者名がないことに注目し、無記名印刷者の特定を進めることとした。無記名印刷者の特定については、英国のブリティッシュ・ライブラリー、ロンドン・ギルドホール・ライブラリー、オックスフォード大学ボドリアン・ライブラリー、同ウスター・カレッジ・ライブラリー、リージェンツ・パーク・カレッジ・ライブラリー、バーミンガム大学カドベリー・ライブラリーに赴き、版本の活字と紙の調査を行うことにより遂行した。

二つ目のアプローチは、上述のネットワークを辿りつつ、ジョンソンの考案した編集手法を採用したテクストを特定し、編集内容を調査することである。本研究課題では、1616 年以降継続してジョンソン・フォリオの出版に関わったリチャード・メイゲンとロバート・アロットが、シェイクスピア・セカンド・フォリオの出版を主導していることに着目し、セカンド・フォリオとファースト・フォリオとのテクスト校合を行いながら、ジョンソンによる編集法の影響が確認できる改訂について分析を行った。

４．研究成果

本研究課題の研究成果は、17 世紀劇作編集の理念と技術の形成について体系的説明を行うために必要な以下の事実を明らかにしたことである。

(1) 【ウィリアム・ウィルソンによる無記名印刷本の特定】 英国の稀覯本図書館で行った調査により、印刷者不明とされてきた古版

本4作品について、ウィリアム・ウィルソンの印刷所で生産されたものであることを特定した。印刷者の特定は、モーズリー、ヘリングマンを中心とする王党派印刷出版業者のネットワークについて調査を行う過程で必要が生じた。そもそもネットワークを把握する手がかりは、現存する古版本に残された印刷・出版者情報にある。タイトルページあるいは奥付に十分な情報が記されていれば、English Short Title Catalogue 上で、当時協働関係にあった印刷出版業者を網羅することが可能だが、モーズリー、ヘリングマンら王党派出版業者の手掛けた出版物についてはおよそ3分の2が印刷者名を記載していない。本研究課題において特定できたウィルソンの無記名印刷本は4作品であるが、本調査によって得られた欠損のある活字や意匠、印刷紙など、同定を可能とした証拠資料は、新たに印刷者不明の古版本 10 作品についてウィルソンによる印刷物である可能性を示唆している。不明印刷者の特定は、書誌学研究の目的足り得る研究であり、その成功は即ち学界への貢献となる。

また、不明印刷者の特定は、調査対象の古版本と同一環境で生産された印刷物の比較を可能にすることで、当該版本が出版に際して通過した編集の全工程を解明することにも繋がる。これは、印刷者が印刷原稿を活字にする過程で、印刷原稿に書き込まれた編集者の指示を反映させたり、テクストのレイアウトやスペリングの修正を行ったりして、編集の一端を担ったためである。

ウィリアム・ウィルソンは、ジョンソンによって考案された劇作編集技法の波及と確立に貢献した二人の出版者、モーズリーとヘリングマンいずれとも協働関係にあったことから、ウィルソンによる無記名印刷物の特定を進めることは、ジョンソン流劇作編集技法の波及様態の解明にも繋がることが期待される。

ウィルソンは、また、ベン・ジョンソンの嫌ったオークス印刷所を引きついだ印刷者であり、かつジョンソンの編集理念の流れを汲む印刷者ジョン・メイコックの前任者でもある。印刷出版業者のネットワークを洗い出す上でのキーパーソンであり、空位期間から王政復古期に王党派印刷出版業者のグループの中核で活躍したにもかかわらず、しばしば印刷物に記名しなかったため、彼に関する先行研究はほとんど存在しない。ウィルソンの仕事に光を当てることは、即ち 17 世紀劇作編集の理念と技術の形成の一端を明らかにすることでもあると考えている。

(2)【シェイクスピア・セカンド・フォリオが呈するジョンソン劇作編集技法の波及様態の解明】「研究開始当初の背景」で言及した Black and Shaaber (1937)は、シェイクスピア・フォリオの第二版(1632)、第三版(1663/4)、第四版(1685)に施されたテクスト校訂を網羅し、それらの中に単なる誤植の修正に留まらない、文学的意図を含む修正箇所が存在していることを指摘したが、一体誰が、どのような目的でそのような文学的編集を行ったのかという謎を解明するには至らなかった。

申請者の研究成果は、セカンド・フォリオの編集者も、ベン・ジョンソンによる劇作編集技法の影響下でテクスト編集を遂行した事実を証明したことである。セカンド・フォリオのテクストは、修正の書き込まれたファースト・フォリオを元に植字され、印刷されたものだが、ファースト・フォリオとセカンド・フォリオを比較した場合、後者からは上演の音響効果を記したト書きが一部削除されている。ファースト・フォリオでファンファーレを指示する 100 あまりのト書きの内、39 のト書きがセカンド・フォリオには存在しない。Black and Shaaber はこの削除について、恣意的なものと指摘するだけで、削除の判断基準を追求することはなかった。申請者の研究は、この削除の判断の背景に、上演用のテクストと読書用のテクストを区別するジョンソン劇作編集技法の影響があることを明らかにした。

音響効果のト書きを読本用テクストから削除する編集法については、先行研究によってファースト・フォリオで採用されていた可能性が指摘されている。この指摘は、ファースト・フォリオの出版に際し、筆写者レイフ・クレインが準備した原稿から印刷されたと考えられている6作品において、音響に関するト書きが完全に欠落していることを根拠としている。出版に際する編集の可能性を考慮に入れない、上演と劇作テクストの関係にのみ焦点を当てた研究においては、劇作版本における音響効果のト書きの欠落が、上演前に作成された作家の初稿から印刷された結果として説明されてきた。これは、音響効果のト書きが上演前のリハーサルで台本係により書き込まれた例を根拠とする説である。

これに対し申請者は、音響効果のト書きの削除が、編集の際クレインによって採用された‘massed entries’との関係で説明できることを指摘した。‘Massed entries’とは、各場面の登場者名を登場のタイミングではなく、予め冒頭に列挙する方法である。もともと大陸の人文主義編集者たちによって古典ギリシャ・ラテン劇の編集に用いられた方法であり、これを用いることによって読本用テクストから台詞の合間にある上演の非言語的要素が排除された。ベン・ジョンソンも1601には既に‘massed entries’を採用した劇作を出版し、1605 年には‘massed entries’によって上演用ト書きをことごとく排除した『セジャーヌス』を出版した。クレインがベン・ジョンソン作品の筆者を担当していたことはよく知られた事実であり、クレイン研究の第一人者である T. H. Howard-Hill は、‘massed entries’をはじ

め、スペリングや省略記号の用い方に至るまで、クレインがジョンソンの筆記法の影響を受けていた事実を解説している。

申請者は、16 世紀末に出版された劇作においても黙劇のト書きが削除される例を示しながら、同時代の劇作出版において、舞台で演じられた非言語的要素を読本用テクストから削除する傾向があったことを指摘した。更にこの技法をジョンソンの影響下で筆写を行ったレイフ・クレインがシェイクスピア・ファースト・フォリオで採用し、この編集の慣習がセカンド・フォリオにおいても受け継がれていることを実証した。

本研究内容については 2016 年 10 月のシェイクスピア学会において明星大学住本規子教授がコーディネーターを務められたセミナー、‘The Second Folio Revisited’で発表した。

以上、(1)と(2)に記した研究の成果は、冒頭にも記したように、17 世紀劇作編集の理念と技術の形成について体系的説明を行うにはあまりにも断片的にすぎる事実ではあるが、今回明らかになった事実から次の研究課題が提示され、それぞれの断片的な事実が結びつくことで劇作編集発展の過程が全体像として浮かび上がってくるものと考える。

〈引用文献〉


① Black, Matthew W. and Matthias A. Shaaber, *Shakespeare's Seventeenth-Century Editors* (New York: MLA, 1937)
② Herford, C. H. and Percy and Evelyn Simpson, *Ben Jonson*, IX (Oxford: Clarendon, 1950)
Howard-Hill, T. H. *Ralph Crane and Some Shakespeare First Folio Comedies* (Charlottesville: University Press of Virginia, 1972)
③ Massai, Sonia, *Shakespeare and the Rise of the Editor* (Cambridge: Cambridge University Press, 2007)
④ Taylor, Gary and John Jowett, *Shakespeare Reshaped* (Oxford: Clarendon Press, 1993)


５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1　件）

Mariko Nagase, Review of *The One King Lear* by Sir Brian Vickers, *Shakespeare Studies*, 54 (2016), 23-26.　査読有

〔学会発表〕（計　1　件）

Mariko Nagase, ‘An Undercurrent of neoclassical editorial convention in Shakespeare's Second Folio’, in ‘The Second Folio Revisited’, coordinated by Professor Noriko Sumimoto, 第 55 回シェイクスピア学会（慶応義塾大学（東京都港区）, 2016 年 10 月 9 日）,査読有

６．研究組織
(1)研究代表者


長瀬　真理子（Nagase, Mariko）
九州工業大学・教養教育院・准教授
研究者番号：80636506